

【京都市の特色】

- ◎ 地域で力を合わせ、日本で初めて小学校を作った「**人づくりを大切に**する地域の風土」
- ◎ 子どもや若者を社会の宝として、「**社会全体で大切に**はぐくむ風土」
- ◎ 子どもや若者が将来に希望を持って「**自己成長して**いくことができる風土」

市民力・地域力・文化力を礎とした「はぐくみ文化」
 ※市民ぐるみ・地域ぐるみで子どもや子育て家庭等を支え、見守る「京都はぐくみ憲章」が市民主導で制定

【子ども・若者・その家庭を取り巻く現状】

- 虐待、貧困、障害等の支援ニーズの増大・多様化
- 少子化の進行
- 生活環境や雇用環境の変化等による若者の将来への不安感・負担感の増大
- 長時間労働の常態化等により、仕事と家庭生活の両立困難
- 家族や地域社会の関係性の希薄化による孤立

【目指すべき“まち”のすがた】

**すべての子ども・若者・子育て家庭を大切に！
 笑顔あふれる『子育て・「共育」環境日本一』のまち**

【計画策定の基本理念】

京都で育ち合い、学び合った子どもや若者が将来の展望を持って成長するとともに、京都に住み、働く人が幸せと希望を感じ、暮らし続けたいと思えるまちを実現する。
 また、「妊娠前から子ども・若者までの切れ目ない支援」を更に推進し、結婚・出産・子育ての希望を持つすべての人の想いを叶え、京都市ならではの市民力・地域力・文化力を結集した「市民の生き合う力」を高め、進行する少子化に立ち向かう。

【新計画における重点事項】

子どもや若者自身が主体的に成長し、子ども・若者を育む家庭を、身近な地域や社会全体で支え合うために以下の視点を踏まえた重点項目を基軸とした施策を推進する。

【大切にする5つの視点（目標）

- ◎ 「**子ども**」が、大切に生まれ、希望を持って育ち合うことができる。
- ◎ 「**若者**」が、多様な可能性の下、主体的に未来を切り拓いていくことができる。
- ◎ 「**子ども・若者をはぐくむすべての家庭**」が、子育てから学び、子どもと共に育ち合うことができる。
- ◎ 「**身近な地域**」が、子ども・若者を「社会の宝」として大切に育むとともに、子育て家庭を温かく応援していくことができる。
- ◎ 「**社会全体**」で、「真のワーク・ライフ・バランス」が息づき、すべての人が幸せを感じることができる。

重点項目

安心して妊娠・出産できる環境づくりと子どもの学びと育ち合い

- ◎ 医療機関等と連携し、子どもや妊産婦を支援することで、安心して妊娠・出産できる環境づくりの促進
- ◎ 幼児教育・保育の充実と支援の質を確保
- ◎ 保幼小の連携を深め、「知・徳・体」の調和のとれた育成を推進

重点項目

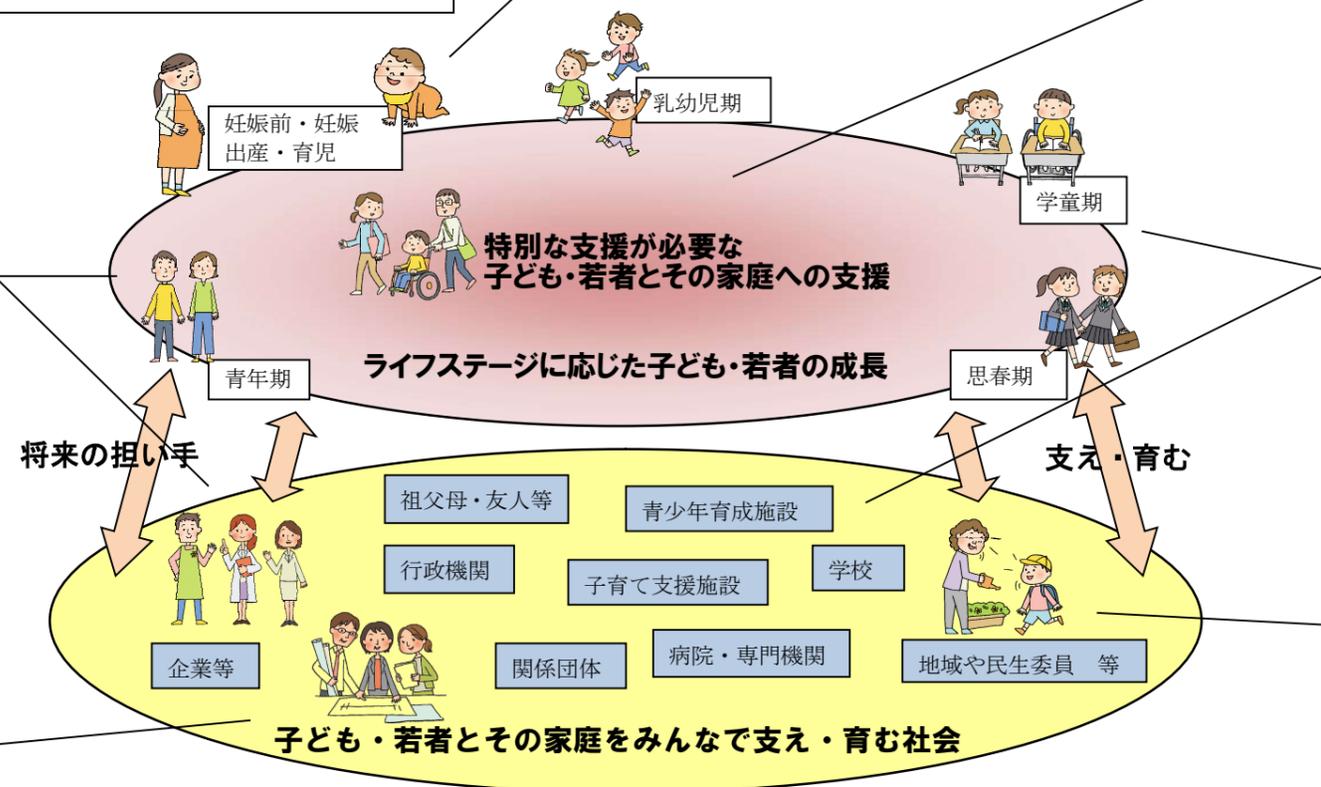
特別な支援を要する子ども・若者やその家庭への支援

- ◎ 「誰一人取り残さない」施策を実現するため、「児童虐待」「社会的養護」「障害児」「ひとり親家庭」「少年非行」「いじめ、不登校、ひきこもり」「貧困家庭の子ども・若者」等への支援を更に推進

重点項目

若者のライフデザイン形成への支援

- ◎ 「若き市民」として、地域と若者が共汗することにより、社会への積極的な貢献を促進
- ◎ 若者がもつ多様な力が発揮できる環境づくりの促進
- ◎ 仕事・結婚・子育て等々、将来に展望を持って成熟した社会人となることへの支援



重点項目

子育て家庭・子ども・若者の孤立防止

- ◎ 乳幼児を抱える子育て家庭が交流できる支援施策の充実
- ◎ 学童クラブ事業や放課後まなび教室、学習支援が連動した小学生の放課後等の居場所の充実
- ◎ 青少年活動センター等の活動により身近な地域での若者の居場所を確保

重点項目

真のワーク・ライフ・バランスの更なる促進

- ◎ 京都ならではの文化に触れ、地域行事に参加するなど、家族や子ども、地域との時間を大切にできる「ゆとりのある環境づくり」の促進
- ◎ 企業や職場ぐるみで、生活や子育てと仕事が相互に高めあう「働き方改革」を推進していく。
- ◎ 多様な働き方を支える「子育て支援の受け皿」と「支援の質」を確保

重点項目

はぐくみ文化を推進するネットワーク機能の強化

- ◎ 子ども若者を支援する「全市レベル」「行政区レベル」「身近な地域レベル」でのネットワークを構築し、保護者と共に子どもや若者を「社会の宝」として社会全体ではぐくむ風土を醸成
- ◎ 行政が地域や関係機関との連携の「つなぎ目」となり、支援が必要な家庭に気づき、必要な支援につなぐ、「切れ目ない支援」の強化

 本市ならではの市民力・地域力・文化力を軸として、施策を推進し、「SDGs」に掲げる目標に則して、少子化に対して立ち向かう、持続可能で「レジリエンス」のある社会を実現